

JA北ひびき [地域コミュニティー誌]

ひびきあいの広場

組合員・地域住民皆様の日頃のご愛顧に感謝を込めて発刊いたしております。

Contents

- JAの生い立ちと自己改革の取り組み
- JA北ひびき「食と笑顔と農業」フォトコンテスト作品募集
- JA北ひびきイベントのお知らせ『収穫感謝祭』
- クイズに答えてJAひびきオリジナルスープをゲット



JA事業のさらなるご利用もお願いいたします。

組合員、地域の皆様と長い歴史の中で築き上げた信頼関係を、さらに深めていくために、私たち役員・丸となって努力を重ねてまいりますので、今後ともご指導・ご協力をお願い申し上げます。

地域の皆様には、食と農業に対するご理解と共に、合わせて作物を取り入れていかなければなりません。

また、酪農家の搾乳等に使用する発電機の調達には、行政はじめ地域内各企業の方々には多大なるご協力を頂いたことに、心より厚くお礼を申し上げます。ありがとうございます。

今、復旧・復興や被害に対する補てん等、道及び各行政はもとより、私たちJAは連合会と協力しながら取り組んでまいります。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。



北ひびき農業協同組合
代表理事組合長 西本 護

地域から求められるJAに

今年も、年1回の地域コミュニティー誌「ひびきあいの広場」を発行させて頂く時期となりました。

今年は、全国的に台風・大雨・地震と災害が多数発生しました。

北海道においては、大雪に始まり6月以降の低温と長雨、7月後半には高温干ばつと、私ども農業に携わる者にとって、厳しい環境が続きました。さらには、9月5日に台風21号が日本海を通過、翌6日早朝には胆振地方中東部を震源とするマグニチュード6.7の地震が発生し、厚真町では震度7を観測しました。

この地震により、全道的な大停電が発生し、私たちの地域においても大混乱となったことは記憶に新しく、地区によっては二日間にも停電が及んだことは、誰もが経験の無いことであったと思います。あらためて近代的な生活のありがたさと、その反面で成すすべのない無常さを感じました。

JAもこの間、貯金の取引やガソリンスタンドでの給油が出来ず、多くの皆様に不便をおかけしました。心よりお詫び申し上げます。

また、酪農家の搾乳等に使用する発電機の調達には、行政はじめ地域内各企業の方々には多大なるご協力を頂いたことに、心より厚くお礼を申し上げます。ありがとうございます。

今、復旧・復興や被害に対する補てん等、道及び各行政はもとより、私たちJAは連合会と協力しながら取り組んでまいります。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

JA北ひびき管内一市二町は、農業が基幹産業であると言えますが、地域人口が減少すると共に農家戸数も減っており、それに伴い、各農家の経営面積は増加をしている現状であります。しかし、雇用労働力の確保が難しく家族労働だけでは間に合わない状況にあります。毎年同じ所に作付できる作物は限られています。作付場所を変えていく輪作には、手間のかかる作物を取り入れていかなければなりません。

「ひびきあいの広場」 ◎発行・編集／JA北ひびき 本所…〒095-10021 士別市西1条8丁目701番地1 TEL…0165-(23)2115 FAX…0165-(23)5162

QUIZ

クイズに答えて
JA北ひびき
オリジナルスープを
ゲット!!
どしどし応募してね!

問題

JAは「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」としての役割を発揮し、持続可能な農業と豊かでくらしやすい地域社会を実現していくために「〇〇改革」に取り組んでいます。

〇〇に入る言葉を答えて応募すると、抽選で10名の方に下記の景品を贈呈致します。



スープ2種類
詰め合わせ
1箱(6個入り)

応募方法

- ①答え ②郵便番号・住所 ③氏名
- ④年齢 ⑤電話番号
- ⑥JA北ひびきに対するご質問やご意見・地域コミュニティー誌に関する感想をお書きの上はがきに投函をお願い致します。

締切日/10月31日(水)消印まで有効
当選発表/当選の結果はJA北ひびきHPにて掲載し、郵送にてご連絡致します。

応募先

〒095-0021
士別市西1条8丁目701番地1
JA北ひびき「プレゼントクイズ」係りまで
※ご応募に際し、お客様の情報はJA北ひびき内で、抽選・当選者へのプレゼント発送及びお客様個人を特定しない範囲でのアンケート分析のため利用させていただきます。

日向温泉 **ご法要・ご宴会・ご会食のご案内**

平素は日向温泉のご利用を感謝申し上げますと共に皆様の一層のご健康心からお待ちしております。さて、今回暮らしの中の種々行事に対して即応出来るプランのご案内をさせていただきます。

ご宴会・ご会食プラン
3,500円より承っております。
銀コースもしくは和洋中コース

ご法要プラン
5,400円より承っております。
個人盛もしくは和洋中

いずれのプランも内容・料金・送迎などご相談下さい。
従業員一同皆様のお越しを心よりお待ちしております。

日向温泉 〒098-0475士別市多寄町4098
TEL.0165-26-2021 FAX.0165-26-2022

Information
JA北ひびきイベントの
お知らせ

JA北ひびき
収穫感謝祭

会場 士別グランドホテル別館 思親花
士別市東3条6丁目4番地

10/20土
10:00~14:00

地元特産品コーナー

米・豆販売
もち米販売
そば粉販売
豆類(小豆・金時)
価格店頭発表!
(種類、内容等については変更の場合があります。)

青果物販売
各種青果物格安販売!
価格店頭発表!

地元産牛肉販売
北ひびき産牛ヒレ肉
(ステーキ用)
北ひびき産牛サーロイン
(ステーキ用)
北ひびき産牛肉ロース
(すき焼き用・しゃぶしゃぶ用)
(内容等については変更の場合があります。)

JA北ひびき
オリジナルスープ販売

収穫感謝イベント

そば試食
数量限定
10:30~12:00

今話題のお米!
JA北ひびきブランド
ちちっぴい試食
数量限定
10:30~12:00

楽しくつこう!
餅つき
数量限定
11:00~

北海道産牛肉消費拡大
数量限定
地元産牛肉
牛乳無料配布
11:30~

豪華景品(JA北ひびき農産物ほか)
盛りだくさん!
豪華景品当たるかな?
お楽しみ
大抽選会
13:00~13:30
(抽選券はお一人様1枚までとさせていただきます。)

餅まき
わくわくドキドキ!
ちびっこ
菓子まき大会
13:30~

JA北ひびき
メガミツクセシター
スタッドレスタイヤ
特別価格

地元産食材使用
揚げたてコロッケ
山菜五目おこめ
いも&かぼちゃ団子
販売

北ひびき
全給油所
キャンペーン
店頭価格値引き
?円

資材
コーナー
農機、防草衣料、
婦人衣料ほか
特価販売

Aコープ協力店コーナー
Aコープ・お米販売「氷点の舞(ななつぼし新米)」
10kg/価格店頭発表!
酒粕/各種特価販売!
激安価格にて数量限定販売

編集後記

JA北ひびき地域コミュニティー紙「ひびきあいの広場」をご覧頂き、誠にありがとうございます。

今回の「ひびきあいの広場」では、「JAの生い立ちと自己改革の取り組み」と題して簡単ではありますが、ご紹介させて頂きました。私たちJAは協同組合として、古くから相互扶助の精神のもと、組合員の営農と生活を守るために、これまで数多くの困難や苦境に立ち向かい、そして乗り越えてきました。

その精神はどんな時代になっても協同組合であるかぎり不変のもので、これからも地域に根ざした協同組合としての役割を果たすため、自己改革を進めてまいります。

今後とも、より一層の事業強化とサービス向上を図り、組合員の皆様をはじめ、地域住民の皆様より愛されるJAを目指して励んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

JAの生い立ちと自己改革の取り組み

協同組合が誕生したのは、18世紀後半のヨーロッパで当時の労働者たちが自分たちのくらしを協同の精神で守ろうとして生まれました。日本の協同組合であるJAはどのように誕生したのでしょうか。

二宮尊徳による報徳社

さかのぼること江戸時代末期、二宮尊徳（通称・金次郎）が指導し設立した「報徳社」と大原幽学が指導した「先祖株組合」が日本において協同組合思想の芽生えと言われています。報徳社は構成員による加入金積立金を、農民に無利息で貸出ししました。これによって生産を伸ばし、ゆとりができたときには、その恩に報いるために、借りた金より多く返



▲二宮金次郎像

す（金＋5分の1の冥加金（みよがきん））といった手法をとりました。二宮尊徳は道徳と経済を併せた報徳の教えを説いた人物です。薪を背負いながら本を読む幼少期の像と言えは知っている方も多いでしょう。

しかし、先進国に遅れて資本主義国家となった我が国は、外国との競争力をつけるため、工業を発展させる必要があり、そのための資金を、当時最大の産業であった農業から得ようとしたのですが、肝心の農民たちは重税に苦しめられていました。

自生的協同組合から産業組合へ

法制度による協同組合としては1900（明治33）年の産業組合法の制定により始まりましたが、同様な近代的協同組合はそれ以前にも設立されており、信用組合、生糸販売組合、製茶販売組合、肥料購買組合を中心に全国で347組合が存在していました。

産業組合は、農民の貧困の悪循環解消を目的としたものでした。組合は、政府による低利融資で生産資材を仕入し、生産者にそれを現物で貸付け、生産者は生産物である米を組合に委託販売し、その代金で貸付の返済を行いました。こうした事業方式を定着させ、組合の事業は拡大していきました。現在のJAによる「総合事業方式」はここにその礎を見ることができま

す。しかし、1937（昭和12）年の日中戦争を境に、日本は戦時体制に

戦時体制の終結と農協の誕生

そこで、こうした状況への対策として、品川弥二郎と平田東助が尽力し、産業組合法が制定されました。産業組合は、信用、購買、販売、生産の4業種とされ、明治36年までに870の組合が設立されました。

この農業会は1945（昭和20）年の敗戦により解散し、新たに農業協同組合（農協）が設立されていく

入りました。これにより産業組合は国家の代行機関を強いられ、1943（昭和18）年、法により農業会となり、国の監督下に置かれ、農家はこれに強制加入となり、脱退も認められませんでした。官庁任命による会長制が導入され、組合員による自治的管理も排除となり、完全に国家統制の代行機関となりました。



▲農協マーク

1948(昭和23)年、農協運動の連帯・統一のシンボルとして農協マークを制定。稲とも麦とも解される穂と、農業の「の」、さらに協同組合の「協」を組み合せたデザインとなっている。

変わるJA 広がる地域のぎずな

監修＝広島大学 助教 小林 元

Q、農協改革ってなに？

A、政府がJAに対し、「農業所得の増大」に最大限の配慮をするよう求めるはたらしめことです。

農業協同組合（JA）は、農業協同組合法（1947年施行）に基づいて設立されています。その法律が2015年に改正され、「農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならない」ことが明記されました。加えて、農林中金・信連への事業譲渡による「信用事業の代理店化」や、「准組合員の事業利用のあり方」なども検討することになりました。

大切なことは、組合員の皆さん自らがJAの将来を考えることです。JAが「農業者所得の増大」「農業生産力の拡大」に全力を尽くすことは当然でしょう。そして、組合員のくらしや地域を元気にする取り組みもJAの重要な役割です。地域になくてはならないJAの未来を、組合員の皆さんで考えていきましょう。

重点実施分野（9分野）

年度	主な出来事	JA大会決議・自己改革等（想定）
25	11月「今後の農業改革の方向について」	11月「JAグループ自己改革について」
26	5月「農業改革に関する意見」 6月「農協・農業委員会等に関する改革の推進について」	10月 第27回JA全国大会
27	8月 改正農協法成立	9月 魅力増進農業農村の実現に向けた提案 JA・第27回JA全国大会決議期間
28	4月 改正農協法施行 11月「農業改革に関する意見」 「農業競争力強化プログラム決定」	4月 魅力増進農業・農村の重点策 (第28回JA全国大会)
29		
30		
31	9月 会計監査の実施・中央会組織変更期限	「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立
32	3月末 改革の実施状況等調査の期限、検討・結論	第28回JA全国大会
33		(第29回JA全国大会)

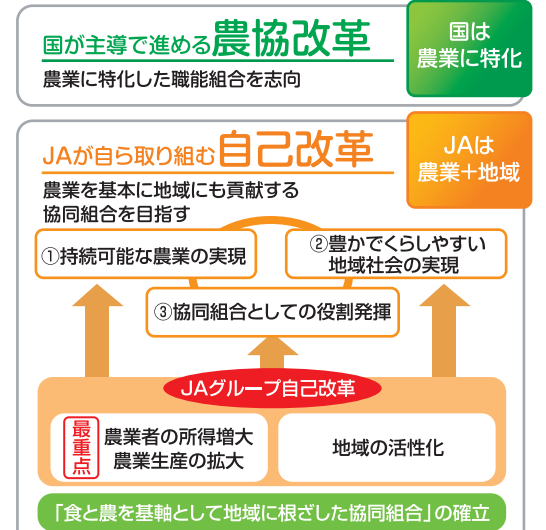
Q、「農協改革」と「自己改革」って同じもの？

A、政府の「農協改革」を受け、JAは地域に必要とされる組織になるための「自己改革」に取り組んでいます。

「農協改革」は、農業の成長産業化を進めるため、規制改革推進会議の提言を受けて政府が進めています。その特徴は、農業協同組合は農業者を対象とする営農経済事業への特化を求めていることです。

これに対し、JAは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、「農業者所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つを基本目標とする「自己改革」に取り組んでいます。JAは、農業を食や地域を含めて幅広く捉えています。営農経済事業や、信用事業、共済事業、生活購買事業、福祉事業など総合的な事業と活動を通じて、組合員・地域住民が一体となった豊かな地域社会を実現するために、「自己改革」を進めています。

「農協改革」と「自己改革」の比較



農協の誕生と波乱万丈の歩み

農業会が解散し、1947（昭和22）年11月19日、農業協同組合法が公布されましたが、戦後の復旧期であり、物のない時代であったため、制度的には西欧型の自由な協同組合の原理を持ちつつも、実態に合わせるため、行政の依存が高いものでした。

また、短期間で設立せざるを得なかった農協は、直後に経済動向の激変に耐えられず、深刻な経営不振へと陥ります。国による助成を受けながら再建を果たしますが、自主・自立を掲げる協同組合が国の援助を受けたことは、課題と教訓を残すものとなったのです。

昭和35年以降の高度経済成長期になると農工間の所得格差は拡大してしまいます。そこで、政府は農業基本法を制定し、基盤整備や機械導入が促進されました。一方で農協系統

は農家＝家族経営を前提としながら協同化による規模の経済を目指し、集団的生産方式を基本とする営農団地構想を打ち出しました。

この間、農村人口は都市へ流出し、専業農家は半減しました。農村の都市化も進み、市町村合併に呼応したかたちで、農協合併が進展し、農協の事業もようやく順調な発展を見せるようになりました。

北海道においては、大型機械の導入と経営面積の拡大と圃場整備が盛んに行われ、作業の効率化と生産性の向上が図られ、この頃、北海道独自である営農・生活資金供給システムである組合員勘定制度（クミカン）がスタートしました。

その後も農協は波乱万丈の歩みを見せます。変動相場制による円高の定着により農畜産物の輸入が大幅に増加したこと。米などの過剰問題が発生し、減反政策が開始されたことなど。このような農業の環境変化は

農協事業の停滞を招きました。

しかし、農協は都度、協同組合活動を強化し、役員員の意識改革、さらには徹底した経営合理化や効率化と組合員ニーズに対応した事業展開を図ってきました。

現代においても同様です。貿易や金融の自由化政策が推し進められ、苦境に立ちマスコミや財界から農協批判を受けても、こうした環境の変化に対応するため、一層の経営基盤強化や栽培技術の統一化、ロットの拡大による農畜産物のブランド化など、常に自己による改革を行い、今日に至っています。

そして、これからも、組合員との結びつきを強く保ち、その意向を反映しながら地域に密着したJA運営を取り組んでいくため、自己改革を継続していきます。

変わるJA 広がる地域のぎずな

監修＝広島大学 助教 小林 元

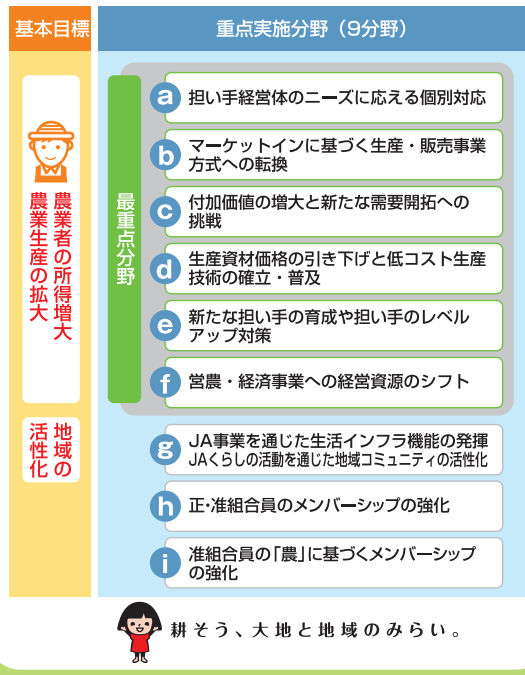
Q、なぜJAは自己改革に取り組んでいるの？

A、持続可能な農業と豊かでくらしやすい地域社会を実現するためです。

わが国の農業や農村を取り巻く環境は厳しさを増しています。そして、高齢化や少子化、高齢者福祉や子育てなど、さまざまな地域の課題も山積しています。地域の農業とくらしを守り、次代につないでいくために、JAはより一層の取り組みを進めています。これが今、皆さんのJAで取り組んでいる「自己改革」です。

JAの自己改革の基本目標は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」の3つです。組合員の願いやニーズを叶えるために、皆さんのJAは、多様な農業・地域の実態に応じて、自らの創意工夫に基づく積極かつ多彩な事業と組織活動を展開し、地域の農業とくらしになくてはならない組織となることを目指しています。

JAは自己改革に取り組むことで、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」としての役割を発揮し、持続可能な農業と豊かでくらしやすい地域社会を実現していきます。



JA北ひびき「食と笑顔と農業」

フォトコンテスト

スマホで撮ってもOK!
気軽にご応募ください!

作品募集中

応募締切

平成30年 10月31日(水)

賞

- 最優秀賞 1点…牛肉1万円相当 ●ひびきあい賞 2点…JAスूप9食入りセット
- 優秀賞 数点…JAスूप6食入りセット

テーマ

「食と笑顔と農業」 日常の農作業風景から、家族や友達などと撮った農作業や食卓シーンなど「食」と「笑顔」と「農業」のいずれかに関係する写真であれば何でもOKです。

応募詳細

- 応募資格 JA北ひびきの組合員の方（正組合員または准組合員）
- 応募方法 写真はJPEG形式にてメールでご応募下さい。下記のメールアドレスに応募作品と各項目を記入の上、送信して下さい。
- (1) 応募者氏名・フリガナ (2) 応募者の年齢 (3) 応募者と被写体の関係・関連 (4) 郵便番号・住所
- (5) 電話番号 (6) 写真のタイトル（テーマ） (7) 写真を撮影した場所
- 応募先メールアドレス kitahibiki.ja@kitahibiki.ja-hokkaido.gr.jp
- 注意事項

1.応募作品の著作権は、当JAに帰属します。2.応募時に記載頂く個人情報（入賞通知・賞品などの送付等、本コンテストを運営するために必要な範囲で使用させて頂きます。3.入賞発表、作品集、作品展に展示、広告に使用する作品などには撮影者の氏名や地区名を明示させて頂く場合があります。4.応募作品の返却は致しません。5.人物を主題にした作品の場合は了解を得て下さい。6.他人の著作物等を撮影した場合、著作権の侵害にあたる場合がありますので注意して下さい。

応募先アドレス QRコード

